
おじいさんとたぬき

鰯頭

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

おじいさんとたぬき

【Zマーク】

Z3573C

【作者名】

鯛頭

【あらすじ】

ひとりさびしく暮らしていたおじいさんの家に、ある日一匹の子だぬきが来ます……日本昔話風小説です、気楽に読んでみてください。

むかし、むかし、あるとあるおじさんとおじさんとが一人でびしょ濡りでした。

今日もおじさんとおじさんは一人でびしょ濡りで食事をしてました、トントン、トントン、と玄関を叩く音が聞こえてきました。

「はて、だれか訪ねてきたのかのお？」

おじさんとおじさんは玄関を開けました、しかしあとは誰もいません。外は雪がしんしんと降っています。

「わしの勘違いじゃったのかのお……」

おじさんとおじさんは残念そうに言つて、扉を閉めようとしました。すると、「待つてください」と声が聞こえました。

おじさんとおじさんが声のした方を向くと、やけに元気の子だぬきがいました。

「親とはぐれて、道を歩いていたら雪が降つてきました。雪が止むまででいいんです、どうかここで温もらせてくれませんか?」とても寒かったのでしょひ、子だぬきの体はぶるぶる震えていました。

「こつまでも、おひだりええ。外は寒かつたじやねつ。ああ、中にはいりなさい」

子だぬきはぱくっとおじさんをして、おじさんのお家に入つてゆきました。

おじさんとおじさんは雪でぬれた子だぬきの体をふいてやり、あたたかく、おいしいごはんを食べさせたあげました。

子だぬきはお礼にとおじさんとこころこころなお話をしました。

たとえば地蔵に化けて人間からお供え物をもらつたとか、隣の山のキツネの子供と化かしをしたとか……

子だぬきの話をおじさんとおじさんはうれしそうに聞いていました。

しばらく子だぬきの話を聞いていたが、再びトントンと玄関を叩く音が聞こえてきました。

おじこさんがあたふを開けると、そこには女人人がいました。

「いりにうちの子が来ていないでしょつか？」

女人人が尋ねました。

「人間の子はしらんのお、たぬきの子なら来ておるのじゃが……」
おじこさんが答えると、子だぬきが「おかあちゃんー」と言つて女人に駆け寄つてきました。

女人人は子だぬきを見るとホッとした顔をして、みるみるひびきむぐじやらになつてこきます。

なんと女人人はたぬきが化けていた姿だつたのです。

「本当にありがとうございました。このお礼は何とこつたらいいのか……」

「いいんじやよ、わしも久しづつにたつぶつと誰かと話せたりうれしかつたしのね」

母親だぬきは深々と頭を下げてお礼を言つて、子だぬきを連れて雪の中に消えてゆきました。

その日からおじこさんの家には毎日、客が来るようになりました。客といつても人ではなくたぬきなのですが。

たくわんのたぬきがおじこさんの家にやつてくつむつになつたのです。

たぬきたちは、山で採つたキノコや山菜、川で捕つた魚なんかを持つてきておじこさんを喜ばせました。

そして、いろいろなものに化けたり、街でみた演劇をおじこさんの田の前で演じたりして、樂しませもしました。おじこさんはもうせびしくあつませんでした。

ある日おじこさんが病気にかかりました。

たぬきたちは人に化けてお医者さんを連れてきました

お医者さんはおじこさんの病気は治すことができないといました。

たぬきたちはとても悲しみました。

それでも、たぬきたちは一生懸命おじいさんの看病をしたのです。山で採つた薬草をおじいさんに飲ませたりもしました。

しかし、おじいさんは死んでしまいました。

おじいさんは幸せだったとおもいます。

たくさんの家族に見守られながらこの世を去つたからです。

たぬきたちはおじいさんの家で一晩中泣きました。

次の日、たぬきたちは自分たちの住む山に帰つて行きました。

おじいさんの亡骸なきがらをつれて……

たぬきたちはおじいさんがさびしがらなこよつに自分たちのすみかの近くにおじいさんのお墓をたてたのです。

もしたぬきのすみかの近くにお墓があれば、そのおじいさんのものかもしれません。

おしまい

(後書き)

拙い文章で読みづらかったかもしませんが、最後まで読んでくれてありがとうございます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3573c/>

おじいさんとたぬき

2010年10月12日03時03分発行